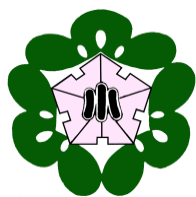


教育目標：よく考え 進んで学ぶ子 自分も友だちも大切にする子
正しく判断し 行動できる子 体を鍛え 最後までやりぬく子



学校だより

高松

令和2年10月30日 11月号

立川市立第五小学校

校長 藏重 佳治

〒190-0011

立川市高松町1丁目12番25号

TEL 042-523-5238~9

042-523-5230 (こだま学級)

FAX 042-529-0854

HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es05/>

開校 80 周年を迎えて

校長 藏重 佳治

来る11月7日(土)には、本校の開校80周年記念式典を挙行致します。今月は、記念誌の中で記載しました、私の「あいさつ文」を掲載させていただきます。

立川市立第五小学校は、昭和十五年に開校し、今年で創立八十周年を迎えました。開校当時は、激動の昭和史の混乱の中、落ち着いて学習に取り組んでいる環境下ではなかったと思います。学校の歴史を振り返った時に、校名が「東京府北多摩郡立川町第四尋常小学校」から始まり、昭和二十八年に今の「立川市立第五小学校」になるまでの間に、七回も校名が変わっているのには驚きです。その一つ一つの校名には、教育制度の変更があったり、立川市自体の発展が関わったりと、正にその時々の歴史が深く関わっているのです。

今回、八十周年の「記念誌」を発行するに当たり、これまでの第五小学校を築き、発展させて下さった諸先輩の功績を讃えると共に、しっかりと十年後、二十年後に、その歴史を引き継いでいかななくてはならないという思いが強くなります。

今年七月から全校朝会(放送にて)で、学校の歴史について児童に語り始めました。まず初回は「高松町の歴史」です。江戸時代の中期、徳川吉宗の「享保の改革」による新田開発により移り住んだ人々によって出来た地区であること、その数が七軒だったことから「七軒家」と呼ばれていたこと、その「七軒家」の人々の氏神として熊野神社が建立されたことなどを伝えました。

第二回目は「学校の歴史」を、そして以降は「語り継ぎたいこと」として、記念誌に掲載された内容を伝えていきました。子どもたちが、この記念誌を手にした時、その一つ一つのエピソードを、私の全校朝会の講話と繋げ、思い出してくれたら幸いです。

語り継ぎたいことの最終項は、「学校が休校になった」と「学校が再開した」です。令和二年の三月二日午後より市内一斉に休校になったことは、学校教育の歴史の中でもこの先二度とない出来事だったのではないのでしょうか。(いや、そう信じて祈るばかりです)だからこそ、この記念誌には、その事実と共に、今を生きる第五小学校の子どもたちとその保護者の方々、地域の皆様、そして我々教職員が一丸となって、「新型コロナウイルス感染症」と闘ってきた証も記録として残しました。

この八十周年を迎えた令和二年(2020年)は、後々政治経済、医療、スポーツそして教育の分野で、数多く語り継がれていくことでしょう。そして、この苦難を体験した子どもたちが、今回の経験を生かし、よりよい社会へと更に発展させる「力」に変えてくれることを切に願います。

おわりに、創立八十周年記念事業の実施にあたり、ご理解とご協力を賜りました実行委員会の皆様をはじめ、保護者・地域、各自治会及び教育委員会の皆様には多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げますとともに、今後とも本校の教育活動の充実と発展のために、変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

80周年記念誌より抜粋

